

IV-14

計画手法としてのチームワーク形成について

室蘭工業大学	学生員	川上健太郎
室蘭工業大学	正員	田村 亨
苫小牧工業高等専門学校	正員	榎谷 有三
室蘭工業大学	正員	斉藤 和夫

1. はじめに

公共事業推進における地元住民の合意形成は、例えばわが国では新東京国際空港(成田)二期工事や東京の外郭環状道路建設にみられるように、秩序立てられた方法が確立されていないため、困難を極める場合が少なくない。このため、「計画手法としての合意形成」に関わる議論が必要とされ、近年海外の事例研究などが始まってきている。

その中において、注目すべき事例が2つある。1つは、アメリカの情報ハイウェイ構想で対応されている「産官学のパートナーシップ」による技術開発¹⁾であり、他の一つは、ドイツの空間整備計画(Fプラン)の中で取り入れられようとしている「チームワーク形成」²⁾である。

ドイツのFプランでは、空間計画立案に地域住民の参加を積極的に促そうとする動きがあり、そのための人材育成と支援施策が制度化される予定である。ここで人材育成とは、やや専門的な計画立案プロセスについて参加者に理解してもらう仕組みを伴うことである。支援施策とは、地域自らがリーダーを抽出し、育成する動きに行政が補助金を出していくものである。従来の空間計画は土地利用計画が中心で、それに分散型の施設配置を行おうとするのがドイツの計画の特徴であった。ここ数年の動きとして、「人」に注目して地域と行政のチームワークをどのように形成していくべきかという動きは、我が国でも大いに参考とならう。

本研究は、社会学で用いられる「連帯度」の概念を用いて、室蘭市の商業近代化計画立案における地元商店街と行政との係わりを分析しようというものである。注目している基本的な考え方は、計画づくりに参加する意識を、行政-商工会議所-商店街と

いう「タテの連帯」と商店街を構成している各店舗間の「ヨコの連帯」とから分析するものである。これにより計画立案への参加意思の程度は、地区の条件、リーダーの存在、店舗の属性によってどの程度異なるかを把握できる。

本研究は、「計画手法としてのチームワーク形成」をタイトルに掲げているが、その内容は基礎的分析の段階に止まっている。しかし、今後の土木計画の研究領域としては重要度の高い分野と考えている。

2. 室蘭市中央地区の商店街の現状

室蘭市は市の大部分が山谷に囲まれているという地形的な制約から、中央地区・輪西地区・東地区・中島地区・本輪西地区の5つの地区に分かれて街並みが形成された。また、室蘭市の人口変動は、昭和47年にピーク(18万人)を迎え、中央町を中心に繁栄したが、その後減少傾向になり、平成6年度で11万人、そして西暦2000年初期では10万人前後まで落ち込むという低位人口予測値がある。昭和47年をピークとした人口の推移を地区ごとに見ると、明治時代から商業・業務の拠点であった中央地区は、空間的・地理的な制約もあり、居住人口が停滞、減少、住居地域の拡大は東室蘭へと移行していった。この様に、中央地区では経営者が高齢化し、そして近年の産業の衰退などの煽りを受け、約3割もの商店が閉鎖しているのが現状である。

また、各地区の基礎人口と購買人口について図-1に示したが、これにより中央地区と中島地区とを比較した場合、中島地区が地区外からの買物客が多いということとは対照的に、中央地区の場合では、この地区内における買物客つまり固定客が多いことが容易に理解できる。

室蘭市では、この対策として、平成元年、国鉄清算事業団跡地を利用することによるレインボー計画を発表した。

この計画の推進においては、市独自の考えで行われるのではなく、当事者（つまり中央地区の商店経営者）が参加することに意義がある。しかし、実際においては、この意義に反し、参加することに消極的な人々が存在することも事実である。前述のように、中央地区では高齢化が進んでおり、後継者不足という問題も抱えていることから、消極的な意見があるものと思われる。これは日本中の歴史ある商店街の更新でよくみられることであるが、ここで中央町独自の課題をまとめると次のようになる。

- ①表通りである大町及びアーケード街が、レインボー計画により裏通りに位置付けられ、通過型の現JR室蘭駅が表通りとして位置付けられる。
- ②駅移転に伴い、現JR室蘭駅周辺の拠点性が、大きく移動することによるその対策。
- ③市立病院の移転や、レインボー計画が同一時期になされることに対する戸惑い。
- ④白鳥大橋開通に伴い、現地点での商業活性が図られる可能性に対する期待。
- ⑤中央地区商店街は組織的に6ゾーン（下記参照）に分かれており、それぞれのゾーンを統合する各商店会が存在するが、地区全体を統括する組織がない。
- ⑥各ゾーンにおいて、商店街の特性が複雑である。また、各ゾーン内においても後継者の有無、居住年の違いなどにより商店核が形成されにくい。

次に6ゾーンの特徴を簡潔にまとめる。

《6ゾーンの特徴》

■中央町3丁目

歴史的に最も古く、市役所が同地区にあるため商店としての衰退は著しくはない。また、レインボー計画直近の地区でもある。

■アーケード

過去には胆振管内からの買物客で賑わったが、現在は以前のような活気が失せている。

■裏浜

アーケード街よりも計画地に近いことから、その恩恵を受ける可能性が高い。

■大町

商店街の軸である大通りに面しているが、衰退が著しい。

■市立病院通り

市立病院の移転が決定し、見舞客などにより経営が成り立っていた商店が危機に立たされている。

■JR室蘭駅前

レインボー計画による駅の移転のため、拠点性を欠き商業上大きな痛手を受けると予想される。

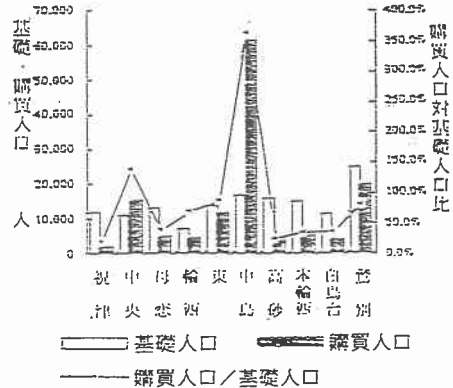


図-1 各地区の基礎人口と購買人口の比較

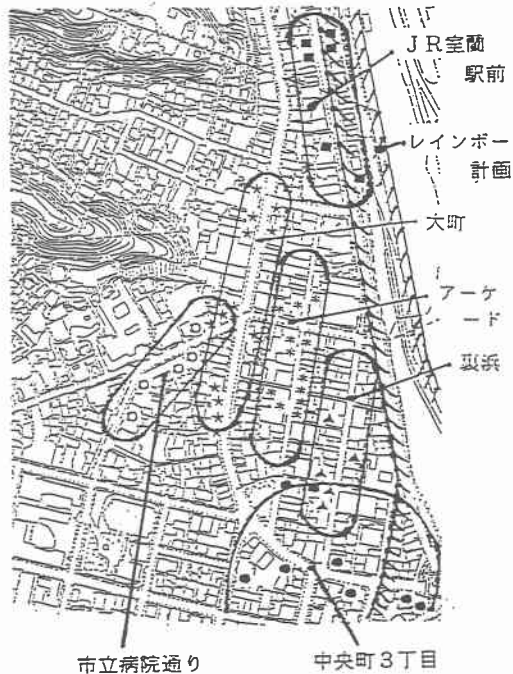


図-2 6ゾーンとレインボー計画の位置

3. 調査の概要

3-1 調査の目的と実施

社会学の分野で地域連帯度を分析した事例はいくつかある。ここでは、1952年、D. R. Fesslerが設定した地域連帯性の尺度化の方法⁹⁾を応用することとした。この方法では地域をタテ社会とヨコ社会に分けて、それぞれの連帯度を計測するものであるが、本研究で対象としている商店街形成については、図-3の様な構図を、タテ社会、ヨコ社会と考えて、その連帯度を分析することとした。

調査の仮説を、図-4に示す。街づくりへの積極度は、2つの連帯度で把握できるものとし、その連帯度と、地域リーダーの存在の有無、当該地区で計画されているレインボー計画の影響の度合い、個店の属性で決まるとしている

調査票は、参考文献³⁾から、表-1にまとめてある。本研究では、この調査票の設計が重要であると考え、調査項目の決定に際しては、商工会議所、中央商店連合会の有識者へのヒアリングを行った。また、事前調査を3回行い、回答しにくい部分や調査項目のわかりにくい点を改良して行った。

調査票の配布方法は、後の分析に関わる重要な決定事項である。本研究では、仮説を立てて多数の層別抽出を行うこととした。仮定した層は、「地区」と「商圏の大きさ」と「積極差」である。地区は、中央地区を構成する8つの商店街から均等に標本がとれることとした。商圏の大きさは、個店が胆振全域あるいは札幌をも商圏としている店舗か、中央地区のみを商圏としている店舗かなどのことであり、商工会議所の過去の調査をもとに、2分類して、標本をとることとした。最後の計画参加への積極さについては、かなり主観が伴うものであるが、商店街の長へのヒアリングにより、日頃の集会に参加してくれている店か否かによって抽出することとした。

調査は、完全面接聞き取り調査方法によって行い、11月21日から12月5日の15日間に64の個店に調査を行い、55票の有効票を得た。なお、聞き取り時間は1票2時間かかるところがあり、平均でおおよそ60分であった。

3-2 分析手法

調査表をみて分かる様に各要因について5つの段階に分けて、それぞれの意思を問う回答肢になっているた

め、多変量解析のできるデータともいえる。しかし、今回は、D. R. Fesslerの分析手法にならって、まず分析することにした。

連帯度の計算は、表-1の調査表に示すタテ連帯、ヨコ連帯の項目を単均集計したもので、以下の式による。

$$\text{連帯度} = 1 - \frac{SD^2}{\bar{X}}$$

\bar{X} …… 各エリア5問の質問文について取得したスコアの各地点における平均値

SD^2 …… 各エリア5問の質問文について取得したスコアの各地点における分散

一般に5肢選択の回答は、3番目(中立)に答えやすいと言われ、その修正方法も提案されているがここでは、各設問のスコアそのものを用いた。なお、連帯度の数値が高いほど、連帯が強いことを示している。

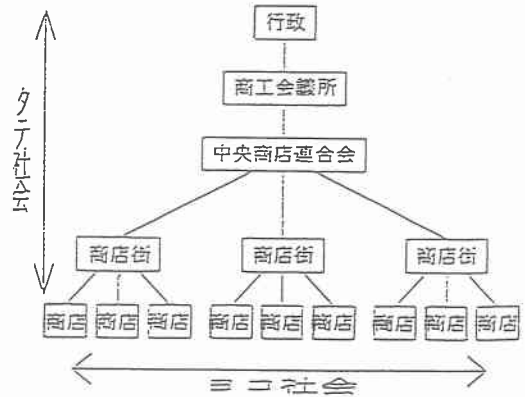


図-3 タテ社会とヨコ社会のつながり

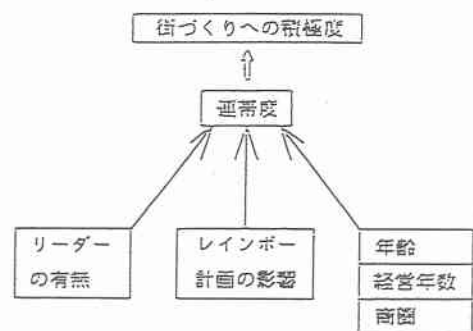


図-4 商店の属性と連帯度・積極度の関係

4. 分析結果と考察

分析においては、各属性ごとに5サンプル以上あるものについて、タテ連帯度、ヨコ連帯度を計算することとした。分析を進める仮定は、図-4に示した3つの視点から行なう。1つはレインボー計画が予定されている地域に近いかな否かで、計画に対する参加の積極度が変わるものと考え、地域別に連帯度を分析した。2つめは店舗属性として、店主の年齢、経営年数、商圏の大きさを取りあげ、この違いにより、連帯度が異なるかを分析した。3つめはリーダーの有無と連帯度についての分析である。以下にその結果と考察をまとめる。

(1) 地区別連帯度

図-2は、中央地区を構成する6つの商店街について、その位置と抽出したサンプルの点を示したものである。レインボー計画予定地に近いブロックは中央町3丁目、裏浜である。

連帯度の計算結果を図-5に示す。

これより分析の仮定である。レインボー計画予定地に近いほど、連帯度が高いということは言えないことが分かる。すなわち、相対的に、現在の商店街の表通りを形成しているアーケード、市立病院通り、中央町3丁目ではタテ連帯度が高くなっている。また、市立病院通りについては、その移転計画が進行中であり、行政とのタテ連帯度も熟した状態にあるため値が高くなったものと考えられる。

ヨコ連帯度が高い2地区については、レインボー計画や市立病院移転というインパクトを直接受けないと考え、行政との連帯が弱いものと思われる。

(2) 店舗属性別連帯度

①店主の年齢別連帯度

図-6に分析結果を示すが、この分析では、若い店主ほど、タテ連帯度もヨコ連帯度も強いことが分かる。

②経営年数別連帯度

図-7に分析結果をまとめた。これより、10年未満の店主は、地域へのなじみが薄いためか、タテ連帯、ヨコ連帯とも弱くなっている。これに比して、10年以上50年未満の店主はタテ連帯度が高く、その中でも、10年~29年の店主は、地域のニューリーダーとなっているためか、ヨコ連帯意識も強い。

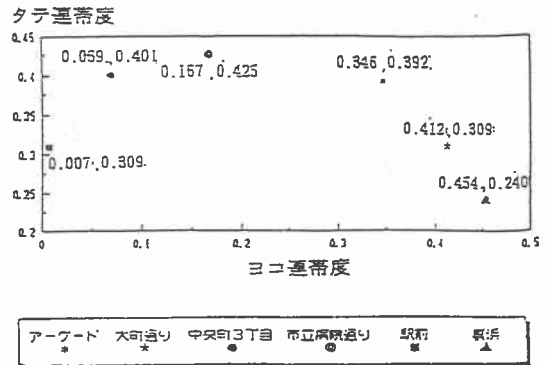


図-5 地区別連帯度

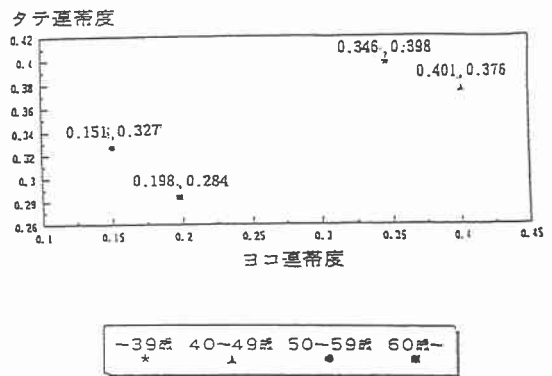


図-6 店主の年齢別連帯度

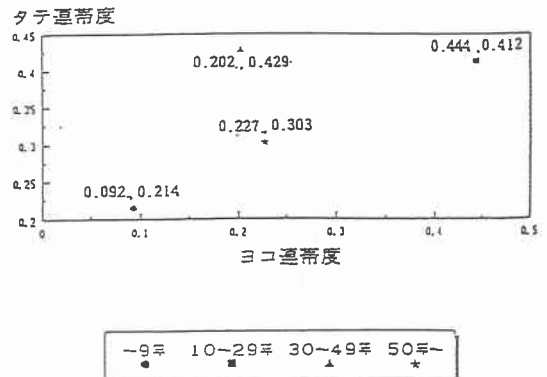


図-7 経営年数別連帯度

③商圏の大きさ別連帯度

仮定では、胆振圏や札幌市なども商圏としている店主ほど、他地域の経営情報に敏感であり、そのことが、自地域の街づくりへも積極性として表われるため連帯度が高いと考えていた。しかし、分析の結果は室蘭市を越えて広域に商圏を持つ店主は、ヨコ連帯度は強いもののタテ連帯度は弱く、これに比べ室蘭市内全域を商圏に持つ店主は、タテ連帯が強いことが分かる。業種分類と重ねての分類も必要と思われるが、商圏が大きいほど連帯度が高いとは言えないことが分かった。

(3) リーダーの有無と連帯度

この分析における「リーダーの有無」とは、調査表において、自らの地域に「立派なリーダーがいる」、「頼れる人がある」、「普通のリーダーがいる」、「あまり頼れない」、「頼れる人がいない」の5分類で設問を用意して、その回答に応じて連帯度を計算したものである。

分析の結果は図-9に示す。これより、「頼れる人がいない」と回答した人々をのぞくと、リーダーがいると回答したグループほどタテ、ヨコともに連帯感が強くなっていることが分かる。「頼れる人がいない」と回答した店主のグループで、タテ、ヨコともに連帯度が強いのは、連帯に対する期待が込められた回答と考えるべきであろう。

5. おわりに

連帯度に関する分析結果より次の3つのことがいえる。①レインボー計画や市立病院の移転などの行政からのインパクトを直接受ける地区ほどタテ連帯度が高い。②店舗属性として、店主の年齢、経営年数、商圏の広がりにより連帯度が異なる。③リーダーが存在していると回答しているグループほど、タテもヨコも連帯度が高い。

ところで商業近代化計画は、商業地における地区レベルの土地利用計画かつ施設計画のための基本構想である。よって、一般には「連帯」も属地的に高まっていくことが必要となる。都市計画への参加が個から世帯へ、世帯からコミュニティへ、コミュニティから地区へと高まって行くという「草の根」的な連帯強化の方向である。

しかし、その一方で、商業の場合には、同業種が一箇所に集まって、魅力を高めるといった計画のダイナミックさがあることを忘れてはならない。その意味か

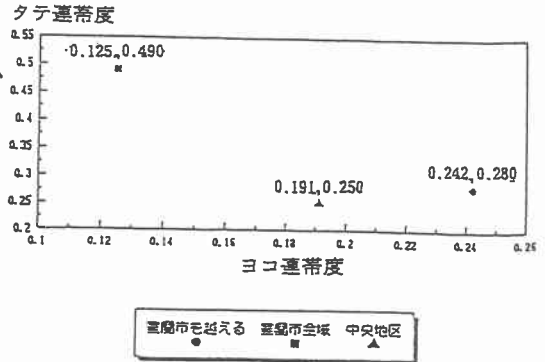


図-8 商圏の大きさ別連帯度

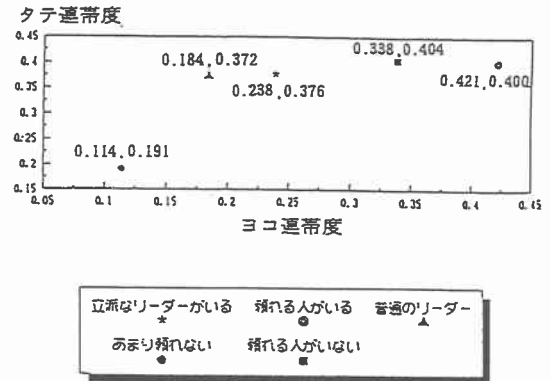


図-9 リーダーの有無と連帯度

らは、地区別連帯や地域リーダーの有無による連帯のみでなく、店舗属性に着目した連帯度を把握することも重要であると考えられる。

今後の課題としては、サンプル上の問題があるものの、多属性に関わる連帯の強さをリズレルモデルなどで分析することである。さらに、時間的に変動する連帯の強さを計測することも、重要と考えられる。

最後に本調査に協力頂いた中央地区の各店舗の方々と中央商店連合会の方々へ心より感謝の意を表します。

【参考文献】

- 1) 例えば、徳山日出男：マルチディア・クライシス KKベストセラーズ 1994. 12
- 2) ドイツの空間計画；原著 Raumordnungsbericht 1993
- 3) 金田弘夫：有珠山噴火に伴う地域住民の災害行動の動態に関する研究

表-1 タテ連帯・ヨコ連帯を把握するための調査票

タテ 社会を みるもの	1	中央地区の商業地再生をめぐる従業員や有力者達が自分の都合のよいように行動したようなことはありませんか。	そんなことは絶対ない、よくやってくれている。	まずそんなことはないと思う。	何とも云えない、わからない。	ややその傾向がある。	その通りである。
	2	今回の中央地区の商業地再生に関して、あなたが何かしようとする、つらくあたられるようなことはありませんでしたか。	そんなことは絶対ない。	まずなかったと思う。	何とも云えない、わからない。	時にそのようなことがあった。	いつもその通りで困った。
	3	中央地区の商業地再生では皆が大変な目に会っていたのに、一部の人が楽をしたというようなことはありませんか。	そんなことは全くない。	まずそんなことはない様だ。	何とも云えない、わからない。	時にそう言う人もいた。	いる、割合たくさんいるので顔が立つ。
	4	市役所や商工会議所が的確な措置をとらなかったということはありますか。	そんなことは絶対ない、よくやってくれた。	まずよくやったと思う。	何とも云えない、わからない。	ややその傾向がある。	全くない、至反省をうながしたい。
	5	町内会のリーダーは、中央地区の商業地再生に関してよくやってくれましたか。	本当によくやってくれたと思う。	ややよかったです。	何とも云えない、わからない。	あまり良くなかったと思う。	全然駄目だと思う。
ヨコ 社会を みるもの	6	今迄あなたの町内は、非常に平和（仲が良い）で秩序正しいですか。	非常に良い。	やや良い。	普通、わからない。	やや悪い。	非常に良くない。
	7	この町内の人は、あなたを大事に扱ってくれますか。	非常に大事にしてくれる。	やや大事にしてくれる。	普通、わからない。	やや粗末にするきらいがある。	全然大事にしてくれない。
	8	中央地区の商業地再生をめぐる、色々の話し合いなどがあったと思いますが、この町内の人々は以前にくらべて、ものわかりが良くなりましたか。	非常によくなった。	ややよくなった。	変わらない、わからない。	やや悪くなった。	かえって悪くなった。
	9	中央地区の商業地再生をめぐる、この町内会の皆さんは、青少年の将来のことを心配していますか。	非常に興心をもって心配している。	ややその傾向がある。	普通、わからない。	やや無興心である。	全然気にしていない。
	10	あなたは、中央地区に住んでいてよかったですか。	非常に良いと思っています。	ややよかったです。	普通、わからない。	あまり良くないが仕方ない。	悪かったと思う。